



“心豊かに
笑顔あふれる”

響

所報〈ひびき〉

No.
123

青森県
総合社会教育センター

令和4年9月30日

青森で生きる未来人財育成事業〈STEP1〉

この事業は、高校生を対象に、地域で行われる子どものための活動に派遣し、異年齢交流により自己肯定感や主体性を高めることを目指すものです。そのため、〈STEP1〉としてオンライン講座を実施し、異年齢交流の意義やコミュニケーション能力向上の手法、レクリエーションの運営方法について学んでもらいました。今年度は申込み段階で230名を超える申込みがあり、昨年度の申込数77名の3倍となりました。これは、①高校生が、自分を高めるためのボランティア活動に、興味関心が高いこと。②オンライン講座とすることで、県内高校生を対象とした一斉受講を可能としたこと。③1回の講座が60分と比較的短時間設定であり、受講しやすいこと。④ライブ受講と共に、後日視聴という形で、自分にとって都合の良い時間に学ぶことができること。⑤学校外学修として適当であったこと、等が効果的に働いたことによるものと思われます。更に今年度は講座数を5つに増やし（昨年度は3つ）、自分の興味関心が高いものを選ぶ事ができたり、昨年度の受講者でも新しい気づきを得たりすることができるようにしました。中には、高等学校内のボランティア活動部で申し込み、受講を活動の1つとして設定したところもあります。

〈各回のテーマ、レポート提出者等〉

テーマ	視聴受講回数※1	レポート提出者※2
【第1回】 「ボランティアを考える」	306	143
【第2回】 「異年齢交流」	242	146
【第3回】 「異年齢のコミュニケーション」	278	61
【第4回】 「実践！ボランティア活動」	182	77
【第5回】 「実践！レクリエーション」	127	66

※1 視聴受講回数が申込み者数を上回っているのは、ボランティア活動部で複数回視聴したことや教職員等の視聴も含まれたため。

※2 レポート提出者とは、視聴後、アンケート提出した人を指す。レポートを3回提出するとボランティア活動に参加できる「ボランティアチーム」に登録可能となる。

アンケートには、「新しい気づきを得た。」「自分なりにできることに取り組んでみたい。」等の感想が寄せられ、自己肯定感や主体性の高まりが感じられました。



～第5回講座の様子から～

この回では、異年齢交流のためのレクリエーションゲームについて、青森市レクリエーション協会会長塩谷彰宏氏より学びました。当センターの近隣高校生が集まって、指導者役や子ども役などになり、講師と共に楽しい運営方法について示してくれました。協力に感謝！！

＜感想紹介＞

レクリエーション活動において、笑顔でいることで周りに笑顔が広がって雰囲気が和んでコミュニケーションを取りやすくなることを実感できました。

9月からは〈STEP2〉として、オンライン講座で学んだ事を生かすべく、地域にある子ども教室などのイベントにボランティアスタッフとして参加、自らを高める活動を実施する予定です。

なお、本事業については、当センターホームページ内でも、詳しく紹介していますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

青森県総合社会教育センター



〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <https://www.als.pref.aomori.lg.jp/>

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

本事業は、高校生・大学生・専門学校生等を中心に社会参加活動（ボランティア活動、異年齢交流、キャリア形成支援等）や創作活動（歌、ダンス等）を行っている団体を当センターが「モデル団体」に指定したうえで支援し、各活動を活性化させるための方法を研究する事業です。

どのような支援が受けられるの？

- ・センターの各研修室使用料の全額減免
- ・情報発信用の掲示板や、Wi-Fi 使用が可能な教材開発室の提供
- ・発表機会の提供（生涯学習フェア等）
- ・ホームページや Facebook での活動紹介
- ・社会教育主事等からの情報提供やアドバイス

どのような団体が登録しているの？

社会参加活動（3 団体）

- ・キャリアサポートクラブコンソーシアム
- ・学生団体 LINDEAL（リンディール）
- ・学生団体 Lesta（レスタ）

創作活動（1 団体）

- ・学生団体確原色

各団体の詳細は、ホームページ等で確認を！

登録は、いつでも受け付けています。興味のある方は、検索で詳細をご覧ください。

青森県総合社会教育センター モデル団体

検索



青森県教育支援プラットフォーム



職場体験やインターンシップ先を探しています

出前授業をお願いしたい

職場見学先を探しています



我が社は学校教育サポーター

「学校に企業等の方をゲストティーチャーとして招いて出前授業をしてほしい。」「職場見学やインターンシップの受け入れ先を探したい。」そんな時は、「我が社は学校教育サポーター」の登録企業等を検索し、活用してはいかがでしょうか。

青森県教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」は子どもたちのキャリア教育を応援する仕組みで、登録している企業等の数は、令和4年8月現在で799社です。

ホームページ上では、登録企業等の検索サイトがあり、対象地区や職種なども選択できますので、どんな企業が登録しているのか、ぜひご覧ください。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

本講座は、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の推進において、関係する主体（教職員、児童生徒、保護者等）それぞれが実効性を感じられる取り組みとして展開していくため、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に期待される効果」や「効果発現のプロセス」等の実際を学ぶことを目的としています。

実施日：令和4年11月17日（木）

対象者：小・中・高・特別支援学校教職員、地域学校協働活動推進員等

※ 各学校や教育委員会に周知しています。

講師の高野 睦氏は、文部科学省から委嘱されたCSマイスターとして、東北圏内を中心に、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部導入に向けた自治体への支援と、導入後の支援を継続されています。

また、教職員が仕組みを理解して社会に関われた教育課程を実現できるよう、教職員向けの研修会でも説明されています。



講師
由利本荘市立西目中学校 校長
文部科学省総合教育政策局
CSマイスター 高野 睦氏

夢を語り合い、考えを深め合うワークショップ 大学生とカタリ！キャリア形成サポート事業

令和4年度、キャリアサポ*では17校の高等学校と1校の中学校へ出向いて、ワークショップを行う予定です。

延べ600人以上の大学生が、2,300人余の高校生と出会います。

6月11日（土）に青森県立弘前南高等学校1年生を対象に、今年度最初のワークショップが行われました。緊張気味に現れた高校生でしたが、時間が経つにつれ目を輝かせ身を乗り出して参加している様子が印象的でした。



グループワーク

カタリ

「カタリ」は、大学生の体験談を聴くことで、多様な価値観を知り、自らの考えを深めます。



車座になって床に座ると、一体感が強まり話しやすい雰囲気になります。自分の夢や将来について真剣に語り合います。

弘前南高等学校企画 テーマ「想い」

当日は、感染拡大防止対策として第一体育館と第二体育館の2会場を使い「複数会場同時進行」という新しい生活様式に対応したワークショップを実施しました。

※ キャリサポとは（キャリア形成サポート事業の略称）

規定の研修を受けた大学生が中・高校生と対話やラベルワークを通したワークショップを実施します。

中・高校生は大学生との交流をきっかけに、自己の現在と将来について考え、夢の実現に向けた具体的な目標を設定したり、今後の生活への意欲に繋がったりします。大学生は、コミュニケーションやプレゼンテーション等のスキルアップと同時に、自分の将来を見つめ直す機会となります。

互いの成長を促す「win-win」のプログラムになっています。

大学生登録状況 10校 627名（R4.7月現在）

弘前大学	弘前学院大学
青森県立保健大学	八戸工業大学
青森公立大学	八戸学院大学
柴田学園大学	青森中央学院大学
青森大学	青森明の星短期大学（順不同）

大学との連携

県内の大学と連携し、4校でキャリアサポの活動を単位化しています。また、各大学でサークルとしても活動しているほか、サークルの連合体を組織して自主的な活動も行っています。

VOL.11
板柳町

魅力ある事業の実践紹介！

板柳町のりんごに関わる事業

産業振興と生涯学習による地域人材育成

板柳町役場 産業振興課 田中 秀典さん ・ 板柳町教育委員会 生涯学習課 松山 典聖さん

今回は、板柳町の「りんご」に関わる事業について、田中さんと松山さんからお話を伺ってきました。

林檎まるかじり塾

近年、全国的に農業就業人口の減少や農業者の高齢化などによる担い手不足が大きな課題となっています。このため、板柳町担い手育成総合支援協議会では、ふるさとセンターを拠点とした**若手農業者育成のための総合的な研修**を実施し、りんご栽培の基礎知識・技術のほか、農業経営に必要な知識の習得を支援する青年農業者研修「**林檎まるかじり塾**」を行っています。

この事業はりんご産業の発展を担う人材を育成するため、板柳町民の農業者を対象に、平成24年から概ね1期2力年の課程で開講し、**令和3年度までに5期のべ100名の若手農業者が修了**しました。令和4年度は3年度からの第6期塾生12名が、りんご栽培の基礎知識や技術等について先輩農家や専門家から学んだほか、県外販売研修では県外市場の動向や農業経営への反映が期待されます。（今年度の県外販売研修は変更の可能性有り）



第6期塾生の年齢構成は**20代～70代**までと幅広く、**実家のりんご園を継がず独立園地を1人で経営する為に貪欲に知識を得ようとする方**や、**退職後にりんご栽培を一から学び直そうという方**までその目的は多様です。参加者からは「今まで手伝いをしてきたからわかっていたような気になっていましたが、理解していなかったことがたくさんあることに気づいた。」や、「講義後の質疑応答で他の塾生の質問のおかげで知識の深掘りに繋げることができ大変ありがたい。」などの感想が寄せられています。

また、卒業後はOB会が組織され、町のりんご灯まつりで**りんご山笠の担ぎ手として地域文化活動に貢献している**とのことでした。本来は町産業の担い手づくりの事業ですが、そこに留まらず**生涯学習や地域活動の実践も行っている魅力的な事業**です。

ふるさと町民講座「タルト・タタンづくり教室」

「タルト・タタンづくり教室」は町の基幹農作物であるりんごを使用した新スイーツの開発を目指したことが事業化のきっかけで、**平成24年から始まり、これまで14回開催し、のべ216名の方々が参加され、製法を学んだ人材を育成することができました。**

タルト・タタンの作り方や由来を学ぶ場を提供することで、スイーツに対する認知度を高め、町主催の「タルト・タタンコンテスト」への参加促進のために町内外へのアピールも盛大に行いました。

現在は諸事情でコンテストを行っていませんが、開催していた当時は教室に参加した町民がコンテストに出品し、**審査後に観客に試食してもらうことで、多くの町民に知ってもらい普及することができました。**



タルト・タタンはりんごの他に小麦と砂糖とバターのみシンプルな材料で作るお菓子ですが、**アップルパイの5～6倍のりんごを使用しなければならぬことから、りんごの大量消費に貢献することができ**ます。タルト・タタンを町の名物スイーツとして育てていくために、**普及促進とタルト・タタンづくり人材の育成を続けていきたい**とのことでした。

人材育成がカギ

「林檎まるかじり塾」と「タルト・タタンづくり教室」は、町の基幹農作物である**りんごの生産者（後継者）と加工者・消費者を育成することで町の産業・生涯学習の振興へと繋がっており、町に根ざした魅力的な事業**です。両事業ともに、**産業や生涯学習の担い手づくり＝人材育成がカギ**となっています。

「**まちづくりは人づくりから**」とよく言われますが、板柳町の「りんご」に関わる2つの事業はそれを象徴する事業でした。



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、話を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。